

経営比較分析表（令和2年度決算）

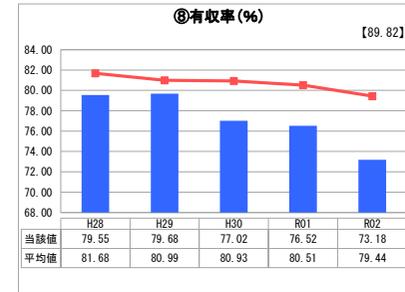
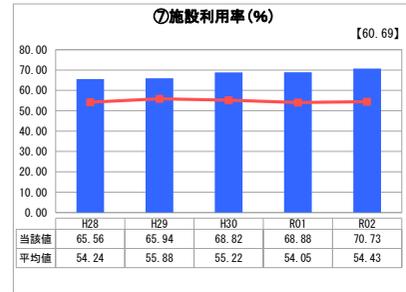
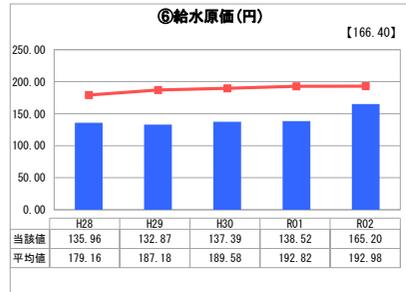
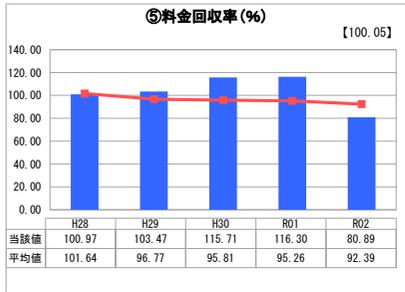
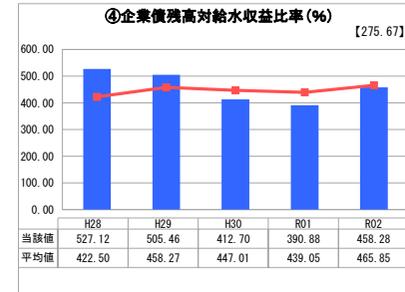
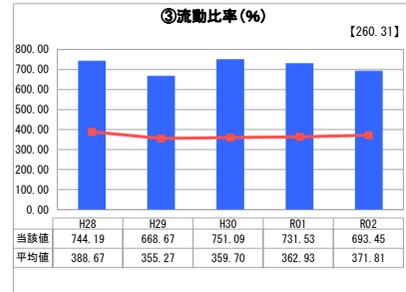
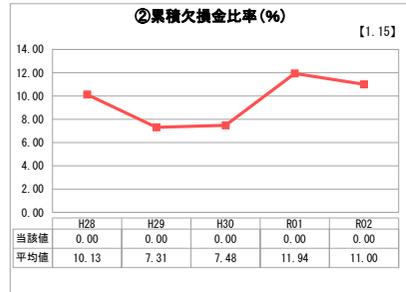
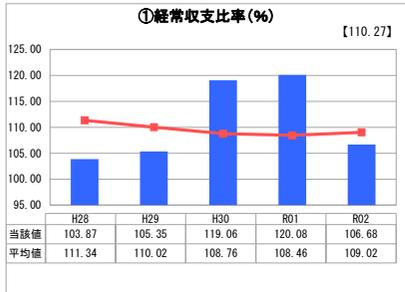
熊本県 芦北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客単料金(円)	
-	67.97	68.60	3.300	

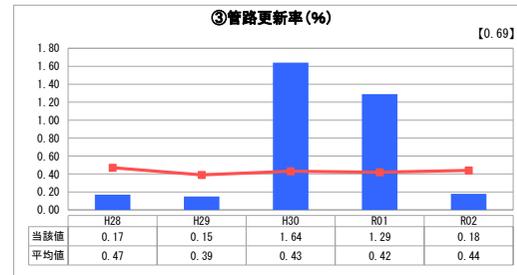
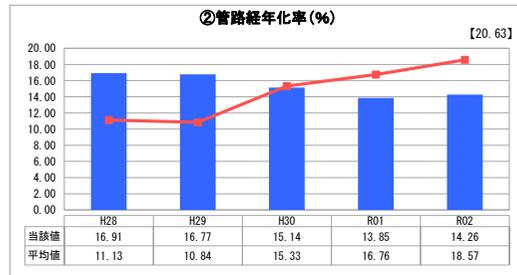
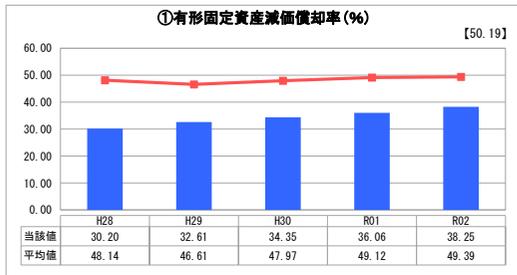
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,556	234.01	70.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
11,242	102.40	109.79

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年7月豪雨災害に伴い、修繕費等の費用が増加し、経常収支比率、料金回収率、給水原価の数値に影響がでておりますが、単年度収支においては100%以上となっております。令和3年度以降においては、改善の見込みです。

企業債残高対給水収益比率が増加していますが、新型コロナウイルス感染症対策として水道料金の減免を行ったことにより、給水収益が減少したためです。なお、企業債の借入については抑制しており、企業債残高は減少傾向にあります。今後は必要な更新事業については、適切な投資規模を考慮しながら実施していきます。

また、有収率については、災害等の影響もあり前年度からさらに減少しており、全国平均値をも大幅に下回っていることから、今後の最重要事業として老朽管の更新事業を行ない、有収率の改善を図っていく必要があります。

なお、本分析表では把握できませんが、本水道事業の固定資産に対し、現金の保有が少ないものと考えており、今後は決算の数値に惑わされないよう、慎重な経営を行っていくことも必要です。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、管路経年率からもわかるとおり、管路の老朽化が深刻であり、このことが有収率の低下に繋がっています。

平成30年4月の料金改定により収益が増加し、管路更新を行ったことで、管路更新率は大きく改善されておりましたが、令和2年度においては災害からの復旧を優先し、予定していた管路更新を中断したため、管路更新率は減少しています。令和3年度以降については計画に基づき更新を行い、管路経年劣化率の向上を図っていきます。

全体総括

全体的に決算による経営状況はおおむね良好であります。有収率の向上など、将来にわたり強靱な水道を築いていくための課題は多岐にわたります。

今後は、平成30年度に策定した経営戦略の数値を毎年精査しながら、課題解決に努めてまいります。

また、強靱な水道となるよう、近隣市町や県とも情報交換を図りながら互いに連携し、様々な事業に取り組んで参りたいと思います。